

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会記録

1 会議の日時	<p style="text-align: center;">平成31年2月28日</p> <p style="text-align: right;">開 会 午後 1 時 0 0 分 閉 会 午後 1 時 3 9 分</p>	
2 会議の場所	<p style="text-align: center;">第3特別委員会室</p>	
3 出席者	委 員	<p>委員長 駒 田 誠 副委員長 平 岩 正 光 委員 松 村 多美夫 伊 藤 秀 光 脇 坂 洋 二 篠 田 徹 野 村 美 穂 酒 向 薫 山 田 実 三 澄 川 寿 之</p>
	執 行 部	<p style="text-align: center;">別 紙 配 席 図 の と お り</p>
4 事務局職員	<p>係長 古野 直美 主事 岩島 由里奈</p>	

5 会議に付した案件

件名	審査の結果
1 最終報告（案）について	原案のとおり承認
2 その他	

6 議事録(要点筆記)

○駒田 誠委員長

ただいまから、これからの健康・医療・福祉対策特別委員会を開会する。

本日の委員会は、最終報告となる提言について協議するため、開催したものである。

当委員会は、所管する特定分野の中から、テーマを絞り込んだうえで調査検討を行い、2年を目途に、委員会として、一定の提言を行うことを目指してきた。

提言は、委員会の調査結果に基づくものであり、本会議における最終報告は、提言の内容を抜粋して行いたい。

本日協議いただく提言案について、あらかじめ配布したとおりだが、意見はあるか。

○脇坂洋二委員

意見はないが、「家庭の繋がり」や「家族のありがたさ」といった表現を盛り込んではどうか。

○松村多美夫委員

高齢者を後期高齢者と前期高齢者とに分けた施策展開の考え方や、元気な高齢者がリーダーシップを取り、事業を行うことで地域が元気になり、リーダー自身の健康にも繋がるなど、健康・医療・福祉が全てつながっていることなどを勉強することが出来た。

○酒向 薫委員

フレイルの意味は。

○健康福祉部長

提言(案)に、「加齢に伴う身体・認知機能の低下による虚弱となった状態」と説明されている。フレイルに繋がる口腔衛生や栄養などに関することについて対応していく。

○山田実三委員

視察先での説明において、フレイル対策については、食べること、運動すること、社会参加の3つの切り口が大事だということが強調されていた。提言の中で、その3つがそれぞれ別々に表記されているが、3つの要素が上手く強調できるとよい。

○松村多美夫委員

食べること、運動すること、社会参加について、それぞれ記載されており、問題ないのではないか。

○酒向 薫委員

中山間地域の生活支援については、岐阜県に直結するところも多いと思うが、視察先において、行政ではなく、強力なリーダーがいたからこそ、実現出来るということを実感した。リーダーの育成が大事である。

○野村美穂委員

制度と制度の隙間を埋める役割を自ら発見し、そこに切り込んでいけるリーダーの育成の必要性を強く感じた。今回のテーマに限らず、PTAや自治会、消防団など、誰かのために自分の時間を使える人をどう育てていくのが、これからの社会の大きな課題だと感じた。また、活動される方の居場所と出番の必要性についても強く感じた。

○伊藤秀光委員

視察先である社会福祉法人ひだまり（滋賀県）のリーダーが要望に応える際、法的に難しいところにも手を差し伸べなければならない中、考えて対応されていた。制度外サービスについてもニーズがあれば行う必要がある。

○駒田委員長

意見も尽きたようなので、御発言の趣旨を踏まえ、提言の文案については、正副委員長にご一任いただきたい。これに異議はあるか。

（「異議なし」の声）

○駒田 誠委員長

異議がないようなので、そのようにする。

本会議における最終報告は、提言の内容を抜粋して行い、その文案については、正副委員長に一任いただきたいが、これに異議あるか。

（「異議なし」の声）

○駒田 誠委員長

異議がないようなので、そのようにする。

なお、本会議において、最終報告が承認されたうちは、閉会后、知事に対して提言を行うため御承知おき願いたい。

○駒田 誠委員長

議題については以上だが、せっかくの機会のため、各委員から、当委員会の二年間の活動について、感想を一言ずつ、お聞かせいただきたい。

○伊藤秀光委員

良い講師を呼んでいただき、老年学などの新しい考え方を学べた。

○篠田 徹委員

健康・医療・福祉、それぞれ自分がその立場となった時には重要な課題となるが、そうでない時には興味がわかないため、提言について、どのようにして県民の方へ伝えていくのが課題がある。視察先の方が思いを馳せて一生懸命やる姿に感銘を受けたが、同時にそれを冷めてみる目もあったのも事実である。視察先の滋賀県においても、ある地域には思いの深い方がみえたが、すぐ隣の町は全然興味が無いなど、やはり最後は人だと感じた。

○酒向 薫委員

現場主義ということで、様々な現場を見て回らないといけない。県内でも市町村によって、比較的若い方が多い地域もあれば、中山間地など過疎が進んでる地域もあり、市町村単位でやるのが違って行く。県が大枠を示し、後は各市町村の実態をみながらやっていくことが大事である。

地域が危機感をもって活動している場合、県の補助などを利用しない取組みが多いが、補助がなくなると事業が継続出来なくなることも要因と考えられるため、それらも踏まえ検討していく必要がある。

○澄川寿之委員

若い方に介護や医療の分野を担ってもらえるよう先導しているわけだが、人材が足りていない状況であり、健康で元気な60代、70代の方の力が必要になる。無理のない程度に参画してもらうことが必要である。例えば、家族では堪えられないことがあっても、他人のためであれば堪えられるケースもあると思う。

○松村多美夫委員

リーダーが元気な地域は、街も活性化していたため、行政が力のあるリーダーを見つけ出すことも大切ではないか。これからは元気な高齢者が、後期高齢者の方を助けていくことで、医療や介護の費用を少なく抑えられると思う。地域で新たに事業を始めることは難しいため、数年で補助などが無くなるといった問題もあるが、抑えられた医療や介護の費用を活用し、スタート時だけでも何か手を差し伸べる必要があると感じた。

○脇坂洋二委員

早くにこの委員会があれば、もう少し健康に注意出来たと思う。

○野村美穂委員

健康を若いうちから意識することが大事だと感じた。先日、乳がんになられた方とお会いしたが、特に女性の乳がんは凄く痛々しく感じたこともあり、男性女性問わず、次の課題として、若い世代へのアプローチについて取り組んでいきたい。

○山田実三委員

様々な場所で一般の方に行政の課題を聞くと、行政の縦割りを問題として挙げられるが、健康・医療・福祉などについて、共通の認識のもと予算が組まれているか、また、我々議員も予算を審査する場合に、全体として同じゴールを目指しているかどうかなどについて、考えることが必要だと感じた。

○平岩正光副委員長

少子高齢化や人口減少社会の中で、いかに我々の地域が活力を維持していくかについて、昨今の数字を取り上げてみると、健康・医療・福祉というのは関連をしているところが多い。

滋賀県のレイカディア大学での取組みでは、経済成長を支えたOBの方々が生き生きとして地域に戻り、組織を立ち上げて、自らが出来るボランティアに参加されていた。健康寿命が更に延伸していく中、地域のリーダーとして活躍される高齢者の方を見て、若い方が地域を支える人になりたいと思えるような岐阜県をつくるため、一生懸命、共に頑張っていきたい。

○駒田委員長

20歳から40年働き、60歳で定年となるが、人生100年の時代では後40年も残っており、まさに第二の人生と言える。社会の様相も変わる中、それぞれがどう生きるかを問われる時代だと感じた。地域共生という時代の中、今回各地域で頑張ってみえる方々の姿を見ることが出来たため、それぞれの地元で実行していただけるようなご尽力を賜りたい。

○駒田 誠委員長

これまでの委員会活動の感想を伺ったが、この際、その他の意見等があれば、承りたい。
また、執行部の方、何かあるか。

○酒向 薫委員

医師不足は長く続いている問題である。過疎の進んだ中山間地には、独居老人やお年寄り世帯が多いが、若い人がいなくなる原因に、診療所に医者や担当医がいないことがある。医師の確保については、今後どのように考えていくのか。

○健康福祉部長

医学部の定員数は増えているため、全体としては、以前と比べて医師の確保は容易になっていくと考えている。その中でどのようにして適切な配置を行うか。すべての地域で同じ医療体制を提供するというよりは、高度な医療を提供する病院は拠点化を図ることで、より安全で効果的な医療の提供を行い、リハビリを提供しないといけない地域には、急性期の病院との連携が取れ、地元でリハビリが受けられる体制を整備することが必要である。また、在宅医療の確保として、在宅医療を提供できる医師と訪問看護や介護との連携を進めるなど、全体として機能ごとに効果的な配置について、きめ細かく見ていく必要がある。そういった中で、今の医師数が妥当かどうかについて検討していく。

○酒向 薫委員

過疎地の診療所が閉鎖するなどの問題もあり、いざ子どもが出来た時に受診出来なくなれば、過疎が進む原因となる。地域医療をある程度経験していただくため、例えば修学資金貸付返還免除要件を3年にするなど、大胆な施策を検討してはどうか。

○健康福祉部長

地元での在宅医療、機能訓練やリハビリを受けながら地域で療養出来るよう医師を配置していく必要があると考えている。いままで、内科であれば循環器内科や消化器内科など、更に専門分化していく方向性であったため、逆に総合診療科やリハビリテーション科、救急科などの複数の分野の科をまたがって診療できる医師が求められると考えている。そのため、大学に対して、若手の医師がそういった科に進むよう相談している。来年度から総合診療科を対象とした修学資金の貸付を実施する予定であり、地域医療に従事する医師が育成出来るように誘導してまいりたい。

○駒田 誠委員長

県総合医療センターで取り組んでいる「すこやか短期入所」について、まだまだ短期入所の需要が多い状況であるため、医師、看護師も不足する中、予算の問題もあるが、障がい者の方を抱えている方の気持ちを汲んでいただき、岐阜地域だけではなく他の地域での設置についても検討していただきたい。

○健康福祉部長

障がい児の地域移行が進む中で、医療ニーズのある障がい児のショート利用のニーズが増えていることは認識している。医療ニーズのある障がい児の受入れ先については、様々な補助等のメニューもあり、医療機関を中心に整備が進んでいる。一方で、県総合医療センターでの受入れにかなりの時間を要していることも認識しており、事情を確認すると、簡単な医療が必要な方の受入れ先はあるが、重度の方を受け入れられる医療機関が少ないことが課題であった。今後は、どのようにして人口呼吸器や胃ろうな

ど重度の医療が必要な障がい児を受け入れていくか、なんらかの対策を検討していきたい。

○駒田 誠委員長

意見も尽きたようなので、これをもって、本日の委員会を閉会する。

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会
委員長

これからの健康・医療・福祉対策特別委員会 配席図

平成31年2月28日(木) 午後1時～
第3特別委員会室

入
口

--	--	--	--	--	--	--	--	--

		浅井 障害福祉課長	寺島 高齢福祉課長	堀 環境生活政策課長	今瀬 県民生活課長	水野 公共交通課長	中谷 ねんりんピック推進事務局次長兼 レクリエーション・健康づくり推進監	
--	--	--------------	--------------	---------------	--------------	--------------	--	--

安江 地域福祉課長	松原 医療福祉連携推進課長	伊藤 医療整備課長	西 健康福祉部次長	森岡 健康福祉部長	山田 健康福祉部次長 (福祉担当)	長沼 健康福祉政策課長	三輪 国民健康保険課長	野池 生活衛生課長
--------------	------------------	--------------	--------------	--------------	-------------------------	----------------	----------------	--------------

山田(実) 委員

野村 委員

脇坂 委員

松村 委員

○
○
○
○

○

澄川 委員

○

酒向 委員

○

篠田 委員

○

伊藤(秀) 委員

○	○
---	---

駒田 委員長

平岩 副委員長